

群馬県立館林高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)自分の学校が好きだと感じている生徒が、90%以上である。	生徒の主体的な活動を支援できるよう、これまで以上に指導体制を充実させるとともに、生徒が学校に対して好きだと感じられていない点を分析し、検討する。	A	A	A	2学期充実度アンケートにおいて「館林高校が好きですか」という質問に対して、1年で92.3%、2年で90.7%、3年で93.5%の生徒が肯定的な回答であり、数値目標は達成できていると考える。否定的な回答には施設設備に不満を持つものが見られたので、具体的な意見を収集し学習環境の改善に努めていきたい。	○安定した人間関係を築いて、充実した生活を送っている生徒が多いのだが、施設設備以外で学校に対する否定的な意見がある理由を検討するべきである。 ○新型コロナウイルス感染症の5類移行により、学校行事等が以前に近い状況で実施できるようになってきたのは生徒にとって大変よい。 ○レスリング部やポート部など、館林高校の特徴である部活動だけでなく、他の部も充実した活動を行い、文武両道が実践できている。
		(2)「強歩大会」に参加して達成感が得られたと答えた生徒が80%以上である。	「強歩大会」開催に向けて職員と保護者の協働体制を築く。また、普段から生徒の体力向上を促す。	A	A	A	1学期充実度アンケートにおいて「強歩大会で達成感は得られましたか?」という質問に対して、1年で89.5%、2年で89.2%、3年で85.3%の生徒が肯定的な回答をしており、強歩大会において多くの生徒が達成感を得ている。職員、保護者との連携を深め、さらに魅力ある行事となるよう努めていきたい。	
		(3)部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が80%以上である。	部活動や特別活動を通して、人間力が向上できるように主体的な活動を促していく。	A	A	A	2学期充実度アンケートでは、1年で93.4%、2年で96.9%、3年で92.5%の生徒が肯定的な回答であり、多くの生徒が充実感を得ている結果であった。部活動や特別活動は生徒の成長にとって重要な要素の一つであるので、安全かつ充実した活動につながる改善策を検討していきたい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(4)生徒の「主体的・対話的で深い学び」を目指す学習活動を実施している教員が、80%以上である。	「主体的・対話的で深い学び」を目指す学習活動について、校長の授業観察や公開授業の際の教員の自己評価及び生徒アンケート等により実施状況を確認し、研修や相互の授業参観等の実施により教員の理解を深め、実践力及び実施に対する意欲の向上を図る。	B	A	B	授業改善自己評価アンケートにおいて、週に1度以上「主体的な学習活動を行った」教員が73%、週に1度以上「対話し学び合う学習活動を行った」教員は70%であった。生徒の授業アンケートではそれぞれ95.6%、83.2%が肯定的な回答をしており、主体的・対話的で深い学びを目指す学習活動が定着してきていると考える。	○生徒が主体的に取り組む学習活動があることは効果的である。また、振り返り活動を充実させることが今後の課題である。 ○読書で他者の言動を疑似体験することは人生を豊かにする。本にこだわらず、新聞や雑誌などスマホの画面ではなく、紙の文字を読むことを目標にしてほしい。 ○教職員は丁寧な指導を行っている。生徒の学力の向上や、「総合的な探究」の充実も、単に進学をするためだけでなく、将来の職業選択など、先を見通して考える必要があるのと、さらに充実を図ってほしい。進学後はICT機器の活用状況で学習に大きな差が出るので、高校でも十分活用してほしい。また、教職員の指導力の向上のため、研修等を行ってほしい。 ○学習は幸せな人生を送るための糧の一つという認識が必要である。将来を見据えた目的意識を生徒に感じてもらえるよう、人生の先輩として、教職員から指導してほしい。
		(5)1、2年生で1年間に7冊以上の本を読んだ生徒が50%以上である。	座談会、読書会、講演会等の行事を開催して図書館の利用を促進し、図書館だよりや館報、オンラインでの蔵書検索により蔵書の紹介に努め、読書への関心を高めるとともに、各教科から読書の効用を説いてもらう。また、「読書感想文コンクール」への参加や「新書読破月間」の設定により論理的文章を読むきっかけをつくらせる。	C	C	C	2学期充実度アンケートの結果、2学期中に2冊以上の本を読んだ生徒は、1年で42.1%、2年で58.2%、全体で50.1%であった(1学期では全体44%)。1学期よりも全体で数値は上がったものの、昨年比では10%程度低い結果となった。また図書館アンケートでは年間1冊も本を読んでいない生徒は2%程度と少ないが、7冊以上読んでいる生徒は約10%しかおらず(5冊以上は約20%)、「新書読破月間」や「図書館だより」等の読書推進活動をおこなっているものの、安定した読書習慣が定着してないと感じている。課題としては、生徒の読書習慣のより良い定着を目指すため、「新書読破月間」の開催時期の見直しや方法、図書部活動の諸行事をこれまで以上に生徒に周知させる等の工夫を行い、読書習慣への一層の充実を図りたい。	
		(6)学習内容の定着及び進学を意識した学力向上のために、学習時間3000時間プロジェクトを実施し、課外授業への参加や課題等に取り組む時間、予習・復習などの家庭学習を含めたトータルでの授業外の学習が、1・2学年では1日平均2時間以上、3学年では1日平均3時間以上確保できている生徒が60%以上である。	生徒が主体的に授業以外の学習に取り組むように課題の量を検討し、放課後の学習室の利用を推進するなど学習量の確保に努める。また、課外授業の趣旨や目的を理解させ、その参加を促す。さらに「学習量調査シート」を活用し、学習量の不足しがちな生徒への声かけ、面談を積極的に行って生徒の意欲を喚起する。	D	D	D	学習量調査において1日2時間以上学習している生徒は約30%、2年は約35%、3時間以上学習している3年生は約40%といずれも目標値を大きく下回っている。学習時間3000時間プロジェクトの趣旨や目的を周知できていなかったことも要因であると考えられる。目標に対し達成困難な生徒への声掛けや面談を実施し、生徒の自己啓発能力の向上を図る必要がある。生徒の実態に即した目標を検討するとともに、プロジェクトを理解した上で、日々の課外授業への積極的参加、家庭学習の習慣化、学習に取り組む姿勢の改善を図ってほしい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(8)登下校時にヘルメットを着用している生徒が60%以上である。	自転車点検時に購入実績を確認し、年2回のヘルメット着用状況調査を実施する。自転車事故発生時にヘルメット不着用の重大な事故になった事例などを紹介し着用を促す。	C	-	C	1学期の調査(7月上旬)では44.5%、2学期の調査(12月上旬)では36.3%と着用率が下がってしまった。交通事故報告数については、1学期は5件、2学期は4件と減っており、この中にヘルメット不着用の重大事故はなかった。ヘルメット着用率を高めることは、交通安全意識の向上にもつながると考えており、指導を継続していきたい。	○館林高校生徒のヘルメット着用率はよい状況とは言えないが、生徒が自らヘルメット着用の必要性を感じて取り組むよう指導する方向性はよいと考える。 ○子どももから、いじめもなく、友人との距離感がよいと聞いている。全体では人間関係のトラブルがあったようだが、いじめはその行為を悪いと思っていたことが問題なので、いじめになる言動の具体例を本人に認識させる等、いじめをなくす指導をしていただきたい。 ○学習時間やスマホを使う時間を意識させることは学校生活充実のため重要である。 ○朝食を摂る生徒が増えたことはよい。引き続き指導をお願いしたい。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行しても、なくなったわけではないので、引き続き必要な場面で感染症対策を行えるよう、指導してほしい。
		(9)学校全体でいじめ問題に取り組み、本校のいじめ防止基本方針を職員、保護者、生徒が100%理解している。	いじめ問題撲滅のために、PTA資料・Webページで「いじめ防止基本方針」を配付・周知する。	A	A	A	毎学期実施している「学校生活に関するアンケート」「教育相談・いじめアンケート」において、全体の99.8%の生徒が、いじめについて、「見たり聞いたりしたことはない」「実際に被害にもあられず」ということにつながる回答をしている。しかし、今年度、アンケート関係にはあられずとも、様々な人間関係のトラブルは顕在化した。様々なアンケートや個人面談、日常生活の観察などから得られる情報などを活用して、今後もいじめの早期発見、根絶に向けて適切な指導を継続していきたい。	
		(10)望ましい起床時間、睡眠時間、就寝時間を意識した生活を送っている生徒が90%以上である。	勉強時間やモバイル視聴時間の家庭での決まり事など、規則正しい生活習慣を送ることの大切さを伝える。	D	D	D	昨年度は75%の生徒が「意識している」と回答して評価「C」であったが、今回1年68.9%、2年72.7%、3年67.2%、合計69.6%になり、7割を切っている。生徒自身に改めて休日におけるスマホ時間や学習時間の取り方を考えさせ、規則正しい学校生活を送れるよう保健だよりなどを通して注意喚起していきたい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(11)毎日朝食を摂っている生徒が90%以上である。	朝食を摂ることの重要性を年間を通して継続的に伝える。生徒には保健委員会の活動や全校集会を通して呼びかけ、保護者には保健だより等を活用して連絡する。	A	A	A	昨年度89%だったが、今年度は92.2%に上昇した(1年97.3%、2年92.8%、3年86.6%)。基本的な生活習慣を整え、免疫力をつける高められるよう、今後も継続して指導していきたい。特に学年が上がるにつれて比率が下がるので、保護者向けの保健だよりなどを通して啓発する。	
		(12)感染症予防のため、室内においては換気を心がけ、帰宅後に手洗い・うがいをしている生徒が90%以上である。	体調管理を整える手立てとして、換気や手洗い、うがいを習慣づけることの重要性を伝える。	B	B	B	今年度5月にコロナ感染症が5類に移行されたため、消毒や検温の必要はなくなった。全体では89.3%で、A基準の90%を若干下回っている。学年別に見ると1年84.2%、2年92.3%、3年91.4%とばらつきがある。引き続き感染症防止や体調管理のために、習慣化することを注意喚起していきたい。	
		(13)学校から提供される進路情報(進路だより、進路の手引き等)が役立っているとして自己評価する生徒が80%以上である。	各時期の学習のポイントや学習量調査の結果、模試結果に基づいた情報などを掲載し、生徒や保護者の進路意識を高め、授業や家庭学習で学習を積み重ねることの重要性について伝える。	A	A	A	1・2学期充実度アンケートにおいて、提供される進路情報が役に立っていると回答している生徒の内訳が「そう思う」25%、「だいたいそう思う」58%でその合計が約80%であり、進路情報の提供や伝達が年間通して有効に活用することができたと考えられる。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(14)進路実現に向けて、自らを高める努力をしていると自己評価する生徒が90%以上である。	HR活動や進路行事を中心に、生徒が主体的に進路について考える態度を育成し、進路目標が明確になるよう、進路関係行事の精選・充実を図るとともに、保護者に対しても啓発活動を行う。	B	B	B	1・2学期充実度アンケートにおいて、進路実現に向けて自らを高める努力をしていると回答した生徒の内訳が「そう思う」27%、「だいたいそう思う」56%、その合計が約83%となり、目標の90%を下回った。生徒自身が自らの未来について真剣に考える機会を設け、目標が明確化するよう進路行事の内容を検討していきたい。	○大学のキャリアセンター長等の講演や、卒業生との交流等を検討してほしい。 ○学校は学力を身につけるだけでなく、人間形成の場でもある。なりたい社会人(就職)を見据えた進路意識を持たせると、より学習意欲が高まると考える。 ○QRコードを使った保護者アンケートは答えやすかった。今後も保護者が参加しやすい形態を検討してほしい。 ○中学生も1人1台端末を使用しているので、ホームページの充実も重要である。
		(15)PTA活動について理解している保護者が90%以上である。	PTA新聞等の発行を通じて、PTA活動に対する保護者の理解を深める。理解度の調査はGoogleフォームによるアンケートにて行い、回収率アップに努める。	-	B	B	コロナ禍からの回復に伴い、PTA活動を見直し精選して実施してきた中で、理解度は予想していたものよりも高かった。今後も、様々な媒体での情報発信を継続し、アンケート等で理解度を調査しながら、より満足度の高いPTA活動を構築していく。	
		(16)本校HPのすべてページを1年で1回以上更新し、年間50回程度の更新ができるようにする。	各ページの責任者は1年に1回以上更新する(前年度の情報のまま放置することがないようにする)。なお、部活動関係や学校行事は5~7月と10~11月を含む年2回以上更新する。	B	-	B	ホームページの更新は、約94%のページで年間のべ60回以上あった。次年度は、すべてのページで更新できるようにしたい。	
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(17)学習支援ソフトウェアが役立っているとして自己評価する生徒が70%以上である。	学習支援ソフトウェアを活用することで、個別最適な学習が可能であることを、年間を通して継続的に各クラスで生徒に周知する。	A	C	B	複数の教科で、年間を通して学習支援ソフトウェアを活用した一方で、授業改善のための生徒アンケートでは、学習支援ソフトウェアが役に立っていると回答した生徒は53.6%であった。	○学習支援ソフトウェアは、生徒にとって適切かどうか、教職員が満足しているかを含めて検討してほしい。 ○ICTを活用した業務改善について、保護者からは一定の理解をいただいている。さらに業務改善に努めてほしい。
		(18)ICTを活用した保護者通知や欠席等の連絡について、生徒・保護者の70%以上が満足している。	保護者に対し、ぐんまスクールネット(GSN)メールやGoogleフォームの利用方法を集会等で周知し、職員の勤務時間外における業務の軽減を図る。	B	A	B	GSNメール及びGoogleフォームの利用に係るアンケート調査により、保護者から「非常に満足」が41%、「やや満足」が35%、合計76%という結果が得られた。プリントなどの配布物についてメールでも送信してほしいなどの要望もあるため、今後の業務改善策として検討していきたい。	